

第2回 くれよん組の報告

【日 時】平成21年8月1日（土）午後2時から4時

【場 所】市役所 本館8階 第2委員会室

【内 容】（1）グループごとに話し合う
（2）その他

【出席者】メンバー20人
ほか 職員、アドバイザー

今回から、「遊ぶ・つきあう」、「知る・利用する・参加する」についてグループに分かれて話し合いを行います。まずは次回以降深めていくテーマを決めるため自由に話し合いを行いました。

1. グループごとに話し合う

【遊ぶ・つきあう】

「遊ぶ・つきあう」のグループでは、仲間との交流が苦手で、そのために外出の機会が少ない人に、もっと外へ出て、楽しい生活を送ってもらうために、どんな場が必要か、どんな工夫が必要かを話しあいました。

○スポーツを通じた交流について

メンバー：スポーツだったらワイワイできますね。

メンバー：盲人テニスなど視覚障害のある人もいっしょにできるスポーツがあります。フライングディスクは手をたたいてもらうなどいっしょにするには工夫が必要です。

メンバー：なかまを増やすためのアプローチはどのように行いますか？

メンバー：電話などで勧誘しますが、他人の輪に入っていくことに抵抗があるようでなかなか人数が集まりません。

メンバー：ポッチャは見に来てもらった時に参加してもらえます。

メンバー：実施場所も自分達で確保するのですか？

メンバー（視覚障害者）：ヘルパーさんと一緒に自分達で確保します。

メンバー：いろいろな障害者が集まって一緒にするのは良いですね。いろいろと個性があります。

メンバー：“外出や人とのつきあいが心理的に大きな負担だけどどこかへ出てみたい”という人へはどう働きかけるといいでしょう。

メンバー：時間をかけて信頼関係を築く必要がありますね。きっかけを作って、“いっしょに行きましょう”と声をかければ安心できるのではないのでしょうか。

メンバー：車いすだったら外出は大変ですね。例えば、「きずな（八尾市立障害者総合福祉センター）」は立地が悪くて不便ですね。

メンバー：ガイドヘルパーの利用については、支給決定量を超える場合は事前に申請が必要です。また、急な予定変更があるとヘルパーの手配が大変です。

○精神障害のある人との交流について

メンバー：精神障害の人は、出て行くのが苦手な人が多いですか。

メンバー：人によって様々ですが、精神障害があると知られたくない人が多いですね。行事に参加しても人と話をするのが苦手という人もいます。くれよん組のような場に出ることも苦手な人が多く、会議のテーマを聞くだけで最初から“難しい”と思ってしまうようです。“空いている時間を楽しく過ごす”ことから始められるといいと思います。コミュニケーションの場が必要ですね。

メンバー：精神障害、知的障害、視覚障害のある人とパン作りの仕事をしています。精神障害のある人は薬の問題もありますね。薬が無いと眠れないという人が多く、薬を飲んで次の日来ようと思っても来られない人もいます。

メンバー：精神障害のある人達の集まりはあるのですか？

メンバー：デイケアなどがあります。そういう場へこちらから出向き、料理を作って食事をするなどいっしょに作業をすると交流の促進になるかもしれません。

○次回以降の話合いについて

メンバー：どのテーマで取り組みましょう？

メンバー：障害のある人同士の交流の促進、障害種別を超えた交流について話し合ってはどのようにでしょう。

【知る・利用する・参加する】

「知る・利用する・参加する」のグループでは、市政情報の提供方法について話しあいました。障害のある人、一人暮らしのお年よりなどへ必要な生活情報をどう伝えるか、どんな工夫が必要かを話し合いました。

○市政情報の提供について

メンバー：私は聴覚障害があります。普段は市政だよりを見て情報を得ています。10月から始まる「ゴミの8種分別」は複雑で、地域ごとに説明会がありますが、聴覚障害のある人への説明は難しいです。

メンバー：障害があるために情報が入りにくい、また地域で説明会があっても参加しづらいということがあります。私たちそれぞれにわかりやすい情報提供を考えてほしいと伝えないといけませんね。

メンバー：ゴミの分別の説明は、所属する障害者団体でも行われましたが、私は視覚障害があるため1度の説明では把握しにくいです。

メンバー：障害者団体に入っている人はまだしも、団体に入っていない人への情報提供はどうしたらいいでしょう。

メンバー：聴覚障害のある人の中には文字が読めない人もおり、市政だよりから情報を取れません。文字以外の絵を入れるなどの工夫が必要だと思います。

メンバー：自治会からの情報取得はどうですか。

メンバー：聴覚障害など見た目でわからない障害の場合は、ご近所の方も知らない場合が多いですね。

メンバー：ゴミの分別など生活情報の提供には、一人暮らしの高齢者など、障害者だけでなく、いろいろな工夫が必要です。あらゆる啓発手段を利用して障害者だけでなく、伝わりにくい人たちへの情報提供が必要だという視点で話し合った方がいいですね。

アドバイザー：また八尾市は多文化ですね。その方々への情報提供はどうしているのでしょうか。「プラ」と日本語で書いてあっても見えない、読めない人もいますね。

メンバー：障害者に限らず、共通の立場で「困ること」を提言するとインパクトも大きいですね。その例として、駅前の放置自転車について啓発キャンペーンを行う「ちゃりんこバスターズ」の活動があります。このような問題は八尾市全体で動く必要があります。情報発信の主な方法は市政だよりの他には何がありますか。

全体から：FMちゃお、各団体、作業所の通信、回覧板などですね。

メンバー：私はよく回覧板を利用します。ゴミの分別はすぐにはできないと思います。根付くまでに時間がかかることは、市側も承知でしょう。

アドバイザー：定額給付金などの申請はうまくいったのでしょうか。

メンバー：知的障害で文章が分からない人がいましたが、支援センターが手伝うことができました。聴覚障害と知的障害の重複の人の場合は、自宅に届いた申請用紙を破ってしまっていたので用紙をもう一度もらい、文章が理解できないので絵と単語で説明しました。

メンバー：権利擁護のシステム作りが必要ですね。

メンバー：地区の民生委員さんの役割も大切ですね。

メンバー：民生委員さんには、障害者を支えるいろいろな情報を持ち、社会資源につなげていただけると助かります。

メンバー：「知る」では、情報提供の問題が大きいですね。市政だよりやホームページなどいくつか媒体がありますが、うまく情報を取れない人もいます。

もっと分かりやすく伝えるためにはどうすればいいでしょうか。次回以降の話合いのテーマになりますね。

○行政への障害者の参画について

アドバイザー：直接会議に参加するだけでなく、意見やアンケートに答えるのも参画ですね。

メンバー：障害以外の一般のイベントに参加していけたらいいなと思います。

メンバー：八尾市の業務を障害者に委託することで参画になりませんか？

メンバー：そういう意見を言うことが参画だと思います。数年前に「ええショップいろいろ（障害者福祉作業所のアンテナショップ）」に関わり、介護施設へ作業所のお菓子を納品するきっかけを作りました。これも参画かもしれません。

メンバー：くれよん組も参画ですが、新しい方はどのようなイメージで入れましたか？

メンバー：私は昨年から「つどい（八尾市市民活動支援ネットワークセンター）」に関っていますが、そこに障害のある人がいらっしまったので、理解を深めるためにと参加を決めました。「つどい」も障害の有無に関わらず上手に利用されるといいなと思います。“共働”できたらいいと思います。

メンバー：見た目からは分からないと思いますが、私も障害当事者です。関わる関係者やスタッフの中には閉鎖的な考え方をする人もあり、そのような考え方に疑問を持つところがあったため参加してみました。

メンバー：障害者のお手伝いをしていた経験があり、内面をもっと知りたい、それによって自分をレベルアップしたいと思い参加しています。

メンバー：中途障害で自分の気持ちをどこに向けたいのかわからなくて大変でしたが、出来ることがまだあるのかなと思って参加しました。障害者フォーラムを見てくれよん組に入りたいと思いました。

メンバー：くれよん組の立ち上げから8年経ちましたが、会議の成果や、必要性はどう感じますか？

メンバー：必要だと思いますが、現在は2ヶ月に1回の開催なので少なく感じます。以前、近所の段差を行政に訴えて直してもらったことがありますが、行政へのアピールも大切だと思います。

メンバー：くれよん組は、障害者が中心になっているのがすごいと思います。会議に参加するようになって市政だよりもよく読むようになりました。いろいろな障害の人と出会い、自分にプラスになります。

メンバー：くれよん組は八尾市障害者施策推進協議会の下部組織ですが、推進協議会には障害当事者が少ないので、市側は、障害者の意見がほしいのかなと思っています。くれよん組は広い視野で意見を言える人が集まっていると思います。これまでの8年間から“行政と市民との協働”がテーマだと思っていますし、市民の立場で何ができるか考えられる場だと思っています。

メンバー：個人の利益を主張する場ではなく、障害があるから利用しにくい点や、障害者のための施策と当事者の利益のズレを指摘できる場だと思います。障害のない人が考える障害者施策には当事者の希望とズレが生じるかもしれ

ません。障害者のアイデア、本当に必要なものを言える場がくれよん組だと思います。

アドバイザー：推進協議会のメンバーは、自分のテリトリーについては話をされますが、それ以外は口出しをされません。でもくれよん組はいろいろな立場の人のことについて意見を言うことができます。

2. その他

(1) ちゃりバスについて

メンバーよりちゃりバスの活動についてお知らせがありました。

(2) 障害者フォーラムについて

12月20日(日)実施の障害者フォーラムについて、実行委員会での動きを報告しました。

(3) ディスコン大会について

11月20日(金)、21日(土)にプリズムホールで様々な人権団体が参加して実施するイベント「ひゅーまんフェスタ」に参加することにしました。誰でも簡単にできる「ディスコン」というスポーツを通して、くれよん組の活動や障害福祉について多くの人に知ってもらう機会とします。

ディスコンを知らない人が多いため、会議の冒頭にディスコン協会の人達にディスコンについて紹介していただきました。今後イベント実施に向けた企画も進めていきます。

(4) 第3回くれよん組の日程

第3回 10月17日(土) 午後2時から 市役所 本館8階第2委員会室